

特集

頑張っている仲間へのメッセージ

～職員の様子アンケートより～

<アンケート概要>

今回の調査では現場の最前線で働く介護職員がどのような思いや考え、やり甲斐を感じて日々の仕事に取り組んでいるのかについて「生の声」をお聞きすることを目的としました。この部分をひも解くことにより、介護職という存在を見つめなおすとともに、人材の確保・育成・定着に向けたこれからの活動に対する多くのヒントを得られるのではないかと考えたのです。

同じ介護職302名の声を集め、思いを見える形にまとめたことにより、共通した課題や魅力というものが見えてきたと感じています。この特集では、そのエッセンスとして、「頑張っている仲間へのメッセージ」をまとめました。

期間 平成26年10月10日～
平成26年10月31日

対象 東京都高齢者福祉施設協議会会員
施設(特養・養護・軽費) 525施設

回答 302名

※今回のアンケート対象会員施設へは詳しいアンケート結果をまとめた報告書を送付いたします。報告書は、東京都高齢者福祉施設協議会ウェブサイトよりPDFをダウンロードしてご覧いただけます。

東京都高齢者福祉施設協議会 [検索](#)

＼Q1／

事業所の理念を理解してる？

- 地域貢献
- 利用者主体
- 人権尊重
- その人らしく生活を送っていただけるよう支援していく
- 利用者の個別性の尊重
- 働く者として個人及びチームとしてのケアの追求

YES 93.7%



＼Q2／

この仕事をしていて良かった？

- 誰かの役に立てる
- 利用者からの感謝と笑顔がもらえる
- 様々な人との関わる体験が学びになる
- やり甲斐を感じられる
- 人の最期のケアに携わり、生きる意味を考えることができる
- 人とかかわることのでられる喜び(体験)が素晴らしい
- 毎日が充実しているところ
- 人に優しくなれるところ

YES 96.0%

＼Q3／

この仕事をして、自分は変わった？

- 人への感謝の気持ち、思いやりの気持ちを強く持てた
- 相手の立場に立って考えるようになった
- 心が穏やかになり、人に対して優しくなれるようになった
- 礼儀正しくなった
- 両親を大切にしようと思うことが増えた
- 我慢強くなった
- 根気強くなった
- 人間としての幅が広がった
- 責任感が強くなった

YES 86.4%

＼Q4／

普段の仕事で大切にしていることはある？

- 利用者に笑顔で丁寧に接する
- 安心・安全な生活環境を創る
- 目配り・気配り・心配り
- 報告・連絡・相談(ホウレンソウ)
- 明るく、元気にあいさつをする
- コミュニケーションとチームワーク
- 利用者に対する傾聴と受容
- 尊敬の念
- 礼儀正しくなった
- 一期一会と思い、その時を大切に
- どんな時でも、利用者様の前では明るく元気に笑顔でいる
- 自分自身も楽しみ入居者も楽しいと思ってもらえるよう考えている

YES 98.3%



\Q5/

職場の人間関係で工夫をしてる？

- スタッフへの配慮
- コミュニケーションを大切に、多くの人と話す
- こまめな声かけ
- 悪口は言わない。聞かない
- 笑顔で元気よく
- 感謝の気持ち
- 明るい挨拶を心がける
- 職員間での報・連・相

YES 88.1%



\Q6/

将来の目標は？

- 資格を取る
- 介護福祉士
- 社会福祉士
- 介護支援専門員
- 施設長になる
- 日本一の施設
- 故郷に自分の入りたい施設を造る
- 体が許す限り介護職で頑張る
- 住んでる地域の福祉に貢献
- 介護職で年収1000万円

\Q7/

若い世代へひとこと

- 大変だけど、やり甲斐のある仕事です
- 人生の大先輩から多くのことが学べる魅力ある仕事
- いくつもの可能性と夢がある
- 介護の現実を見て働こう
- 大変でも1つずつチャレンジしていこう
- 若い世代の皆さんが、「働きたい!」と思う世界になるよう、頑張ります
- 3Kと言われているが、それ以上に学ぶことや、経験、得るもの・事が多いです
- まずは、飛び込んでみて感じて下さい。楽しいですよ

\Q8/

国や東京都、東社協への意見

- 働きやすい環境づくりを
- 介護職の処遇を改善して
- 若い世代へのイメージアップ
- 社会的地位の向上



\Q9/

介護の仕事は
今後どうなるといい？

- 大変さばかり注目されているが、介護の素晴らしさを伝えたい
- 一人ひとりのスキルアップ
- 介護職の地位向上
- 人員増
- 給料アップ
- ゆとりある職場でゆとりある介護をしたい
- 移乗介助のためにロボットがあれば
- 家族参加型。ボランティアでも良いので家族入居者
- 小学生のなりたい仕事ランキングにランクイン
- 家族、入居者、職員がチームとして成り立つ

アンケートから見てきたこと

それは、福祉施設の専門職として、自ら考え行動するプロフェッショナルの姿。多くの職員が、利用者の生活を支援する施設の要としての自覚を持っていました。そして、やり甲斐を感じていることを、他施設の仲間に発信していきたい、という思いが感じられました。

一方で施設としても、介護業務の見直しや介護機器の導入、間接業務の業者委託、働く環境の整備等々を検討していくことが求められています。



委員長からのエール

私はお年寄りが大好きで、特別養護老人ホームで30年以上働いています。措置から契約へ、介護保険制度施行、資格制度の創設などなど、激動の時代を介護職、生活相談員、施設長と現場から経営職へと歩んできました。今、その歩みの総括に取り組んでいます。大好きなお年寄りと毎日が過ごせたことに、やり甲斐を感じ、お年寄りや仲間たちからいただいたものを地域に還元したいと思っています。

利用者支援検討委員会 委員長 平林 ちよ子